

動労第35回全国大会

決定的な反動革マル分子の破産



79.8.19
N全日版 26

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二二五八・九・(公衆)三三三三・七二〇七

動力車職場を守るために今こそ決起しよう！

全国の動労組合員のみなさん！
動労第三五回全国大会はこの間の反動革マル分子によるセクト的引きまわし暴力支配の破産が決定的に暴露される場となりました。「千葉から七名が参加した」ということを大写しに描き出して、「千葉地本再建」の可能性があるかのような幻想を描き出そうとした革マル分子の策動は一二地本を中心とする七〇名の勇気ある決起による「全面修正動議」と革マル分子とそのベッタリ追従者だけの「片肺・欠陥執行部」という現実によって見事に粉碎されてしまいました。



勇気ある決起！

熊本大会の第一の特徴点は、この間の革マル反動分子の暴力支配に反対する全国の心ある組合員の公然たる決起です。

全くのデッチ上げを書き連ね、前段に職場討議に付すことすらできなかった別冊方針「千葉地本再建の取り組みの中間総括と今後の方針について」を全文削除し、「〇五臨中での特別決議を基調とする修正案が全国の一二地本の代議員から提起されたのをはじめ、「安定宣言」を否定し反合同闘争を戦闘的に闘うことや「水本運動」を拒否する修正動議が多数出され、堂々たる論争を展開し、妥協を拒否し採決が行われました。

かくし切れない暴力的体質！

熊本大会の第二の特徴点は「本部」反動革マル分子が、全国の良心的組合員の決然たる決起の前に、その本質である暴力的機関運営ができなくなったということだ。

「千葉がいなければ正常な機関運営ができる」とごまかそうとしても、まさに「頭かくして尻かくさず」であり、九州地評の宣伝カーで多数の竹竿を会場内に持ち込み、その中には「室内用？」に短く切り先端を竹やり状にしたものまであるというのを、多くの組合員に目撃されています、見せかけだけの「暴力放棄」の仮面がはがされてしまいました。良心的組合員の間では「一体何のために竹やりを持ち込むのか」「組合員を脅かすつもりなのか」と話し合われており、ここでも暴力分子の目論見は完全に破産してしまっています。

中執委を構成できず！

そして、熊本大会の第三の特徴点は反動革マル暴力分子の最大の破産として役員改選に当って中央執行委員会を構成できなかったということだ。

この間、反動・革マル分子は良心的組合員を暴力的に脅迫し、「機関決定」をデッチ上げ、動労の総意である「とするために良心的役員・活動家・組合員を引きまわし、動労を私物化してきた。

全国の心ある組合員はこのような形で反動・革マル分子に利用されることを決然と拒否したのである。そして、反動革マル分子とこれに追随する分子だけで中執を構成すべくかき集めても、副委員長一名と中執三名を欠員にせざるを得なかったのです。

総評からも相手にされない反動分子！

全国の動労組合員のみなさん！
第三五回全国大会における反動革マル暴力分子の破産は決定的です。総評・積枝議長や全交運・吉岡議長の「千葉問題」についての痛烈な動労「本部」批判、総評大会での動労の林委員長、青木書記長からの質問に対する富塚事務局長の「労線統一についてあれこれ言う前に、全動労や動労千葉の問題など動労内部の統一を先にやったらどうだ」という答弁等々、動労が総評労働運動の中でも「相手にされ」なくなっている現実ははっきりしています。

勇気ある決起に続け！

さらに、安定宣言で絶対反対を放棄した全く右翼的な反合同闘争路線や「水本謀略」へのめり込み等々、反動革マル分子は動労をますます「闘わない孤立」へ導こうとしています。こんなことで動力車職場を守ることはできません。

一二地本・七〇名の勇気ある決起に伝えて、今こそ動労大改革に立ちあがらうではありませんか。